

代表質問



そうま市民の会代表 浦島勇一 議員 が問う！

対話 12分30秒
具体的にどうするの？！

市長の政治姿勢について

市長就任22年目を迎える本年、各メディア等の新春インタビューにおいて、令和5年度は「対話を進めながら相馬市のあるべき姿を皆で考えていきたい。市民と行政が一丸となって将来像を描く一年にしたい」旨の発言をしている。この意図すること、そして具体的な行動について尋ねる。

Q. 市長の具体的な行動について問う。

市民との合意形成の上で政策推進の必要性を考えた際に、市長という立場での直接要望聴取という形態が当然あり得るわけであるが、市としての判断が求められているため、必ず担当部署との協議に

おいて決定することとしている。また、重要な案件については、市議会と相談の上、政策形成を進めることとしている。

また、地域住民の意見や要望をまとめ、行政につなげる役目を担っている行政区長との意見交換は極めて重要であると考えている。

さらに、直接市民の声を市長に届ける「市長への手紙」については、市政に自身の要望や意見を届けることが困難な市民の方からの声を聴取する手段として活用している。

そして、最大の意見交換の役割を持つ機関として、二元代表制による市民の代表である市議会議員との直接的な情報交換や要望聴取は最も重要と考えている。

Q. 要望書や政策提言の検討・調整・決定過程について問う。

A. 市民や各団体から市に寄せられる要望については、担当課において要望の相談及び要望書の提出を受けており、その要望書については市情報政策課が全体として集約している。

担当課は、その内容について、現状の確認や分析を行い、法令や既存の制度なども調べた上で、市の所管において検討すべき事案かどうかを判断している。

その上で、公益性や公平性、さらには財政負担を勘案し、必要性、優先度合いなどを踏まえ総合的に検討し、市長の決裁を経て要望への対応を行っている。

その他の質問

- 新型コロナウイルス等の対応について
- 東京電力(株)の諸事業への対応について



にし 横山和雄 議員 が問う！

将来に向けた 財政計画を!!

財政計画について

地方において人口減少・少子高齢化が深刻な課題となっており、多くの地域で生産年齢人口が減少していること、それらの影響から地域経済の縮小化が進んでいること、都市部への人口流出の増加、そして頻発する自然災害の発生等、多くの財政安定化における困難がある中、地方自治体は財政を持続性のあるものとする必要があると考え、質問する。

Q. 健全な財政運営が維持できる為の本市の取り組みについて問う。

A. 市は、令和元年に第5次相馬市行政改革大綱を策定し、自治体経営の基盤強化を基本方針

として、財政の健全性を維持するための各種取組を行っている。

歳入の確保については、市税の収納率向上や市有地の売却などに努め、歳出の抑制については、事業の目的、必要性や優先度などを見極め、事業の見直しに伴う人員や費用、数量の最適化、外部委託の費用対効果の検証などを徹底してきた。その結果、令和元年度から令和3年度の3年間で61事業を見直し、削減効果は、令和元年度約3,500万円、令和2年度約4,300万円、令和3年度約5,600万円、3年間の合計で約1億3,400万円となっている。

Q. 財政調整基金の今後について問う。

A. 市は財政調整基金について、大規模災害などによる一般財源の緊急支出に備えるために、各年度末において30億円を下回らないことを目標として積立てをしてきた。令和4年度末では約35億円となる見込みであるが、令和5年度において、約20億9,500万円を繰入する予定となっており、令和5年度末では同基金残高は約14億円となる見込みである。

市としては、令和4年3月の地震災害が大規模であったことから、財政調整基金残高が目標の30億円を下回ることは、やむを得なかったと考えているところであるが、今後とも不断の行政改革に努めながら、常に緊張感を持って大規模災害等緊急事態に備えられるよう、持続可能で安定した財政運営を堅持していきたいと考えている。

その他の質問

- 災害に強いまちづくりに



新時代そうま 山中宣明 議員 が問う！

利便性を高め、効率の良い 運行を考えたらどうか!!

おでかけミニバスについて

SDGsは地球環境を守るために必要であるとして、世界中で取り組んでいる。おでかけミニバスについて地球環境にやさしい運行をしていく必要性を感じ、質問する。

Q. 実績の検証について問う。

A. 市はおでかけミニバス事業の効果を検証するため、令和2年に利用者及び市民向けのアンケートを実施し、その結果、おでかけミニバスは市民にも認知されており、利用者には十分満足していたと考えているものと考えている。市としては、事業の目的の一つとして高齢者のお出

かけ支援という側面があることから、生活の足として無料で利用できるという安心感を持ってもらうことが重要であり、乗車人数や乗車率といった効率の面だけで事業の効果を測れるものではないと考えている。

市は、今後も市民の皆様からの意見を伺いながら、利用者満足度を高めるための改善に取り組んでいきたいと考えている。

Q. 環境にやさしい運行を行う考えについて問う。

A. デマンド型の仕組みをおでかけミニバスに導入し効率的な運行を実現するためには、利用者が事前に予約を行うことが必要になる。

しかしながら、現在は予約不要の運行形態としているため、電話やスマートフォンでの予約が必須になると、利用にあたっての手間が増えるという点になる。また、利用者の大半は70歳以上の高齢者であるため、そのような利用方法の変更は、混乱を招くことが想定される。この事業は、利用者に生活の足として気軽に利用できるという安心感を提供するという目的があることから、市としては、現時点においては、おでかけミニバスをデマンド型へ切り替える考えはない。

今後、運転免許証の返納者が増えていくことが予想されるため、おでかけミニバスの利用方法などのさらなるPRに努めるとともに、利用者の声を踏まえながらルートへの最適化に取り組んでいきたいと考えている。

その他の質問

- 浜の駅松川浦の災害時の対策について

